

◇17年度予算案と3次補正予算案を提出◇

政府は、2017年度予算案と16年度第3次補正予算案を国会に提出した。17年度の一般会計の歳出総額は、社会保障費の増加などで9兆7千454.7億円と5年連続で過去最大を更新。農林水産関係は、16年度比20億円減の2兆307.1億円を計上した。また、3次補正予算案の追加歳出は622.5億円で、災害対策費では、昨年8月末の北海道・東北の豪雨・台風災害にかかる復旧支援を措置。農業分野では、集出荷場やハウスなどの再建支援、次期の作付け支援などに61億円を確保した。また、熊本地震からの復旧・復興関連費として、災害など廃棄物処理費用の不足分などを追加する。(2017年1月20日)

◇G20農相会合 栄養改善へ生産性向上を宣言◇

日本や米国をはじめ、ドイツやフランス、中国、ロシアなどによる20カ国・地域(G20)農相会合がドイツ・ベルリンで開かれ、世界の食料安全保障と栄養改善に向け、農業における水利用の効率性や情報通信技術(ICT)などの活用による生産性などの向上を図るとした宣言を採択した。畜産などでの薬剤耐性(AMR)の発生抑制に向けた連携の推進なども盛り込んだ。日本からは松島浩道農林水産審議官が代理出席した。(23日)

◇鳥インフル疑似患畜 宮崎県木城町で確認◇

農林水産省は、新たに宮崎県木城町の養鶏場(肉用鶏・肉用鶏約17万羽)で高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されたと発表した。養鶏場での発生は昨年11月28日以降、9例目。同省では家きん飼養農家を含む畜産関係者に対し、飼養衛生管理の徹底などを呼び掛けるとともに、異常家きんの早期発見に万全を期すよう求めている。(24日)

◇2～4月降水量 太平洋側で平年並みか少なく◇

気象庁は、2～4月の3カ月予報を発表した。この期間の降水量は、東・西日本太平洋側で平年並みか少ない見込み。〈2月〉北日本は日本海側で平年同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本は日本海側で平年同様に曇りや雪・雨の日が多い〈3月〉北日本は日本海側で平年と同様に曇りや雪・雨の日が多く、太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い〈4月〉北・東日本太平洋側と西日本は、平年と同様に晴れの日が多い。(25日)

◇MA米落札価格 キロ145円で過去最低更新◇

農林水産省は、ミニマムアクセス(最低輸入量、MA)米にかかる2016年度第4回目の売買同時入札(SBS取引)結果を公表した。予定数量の3万トに対して、9453トを落札。落札価格は取引量が最も多かった米国産うるち精米中粒種で、前回は7円安のキロ当たり145円と過去最低水準を更新した。昨年秋に不透明な取引実態が明らかになり、第2回入札から業者間の調整金のやりとりが禁止されて以降、過去最低水準を更新し続けており、調整金の禁止前の公表価格は、実態と大きく異なっていた可能性が鮮明になってきている。(25日)

◇大雪による農業被害 さらに拡大の見込み◇

農林水産省は1月11日からの大雪による農業関係被害を更新した。農業用ハウスなどは19府県・2432件で、果樹の樹体などが5県・306畝、農作物などは11府県8畝などとなっている。大雪の影響で被害調査が進んでいない地域も多く、さらなる拡大が見込まれる状況となっている。(27日)